

## 総合盲学校の新設

北海道教育委員会は、視覚障がい教育を幼稚部から専攻科まで一貫して行うために旧友朋高校跡地に「総合盲学校」を建設することとした、との新聞報道がありました。

私も、教育長時代に、総合盲学校の開設に係わっておりましたので、いよいよ構想の実現に向けて動き始めたことを、感慨深く感じています。また、北海道は極めて厳しい財政環境にあり、こうした中で新たな教育施設の整備を決断された知事、教育長はじめ道関係者に敬意を表したいと思っています。

私が、総合盲学校の整備という課題と出会ったのは、平成18年秋のことで、今は亡き地崎昭宇さん、大先輩の原一夫先生、千葉道議会議員のお三人から、高等盲学校の改築の必要性と、改築の際には友朋高校の跡地に建設すべきである、といったお話をお聞きしたことに始まります。

現在、盲学校に通学している子ども達の数是非常に少なくなっており、札幌盲学校では幼・小・中合わせても40名足らずで、教室も寄宿舍もがら空きという状況です。

一方、特別支援教育制度が始まって以来、特別支援を必要とする子どもたちが大幅に増えており、平成18年当時既に、養護学校などの特別支援学校の不足が重大な政策課題になっていました。

この緊急事態に対処するために、銭函に新たな高等支援学校を開設することにしましたが、それだけでは必要な学級数を確保することが極めて困難な情勢にありました。

こうした、いわば需給のミスマッチを解消しながら、必要な教育を確保していくための方策として考え出されたのが、札幌盲学校と高等盲学校を統合して、就学前から就学後まで一貫した視覚障がい教育を行うことができる総合盲学校を新たに作り、既存の札幌盲学校は特別支援学校に転用する、というものでした。幸いにも、友朋高校の跡地がそのまま残されていたから、その土地を処分することなく教育施設用地として活用していただくよう知事にもお願いをいたしました。

盲学校に通う子どもたちの保護者などから、切実なご要望をいただきましたし、道議会でも千葉道議から援護射撃をしていただきました。そんなことを思い出しながら、新聞報道に目を通したところです。

また、関係者の方々の喜びも、ひとしおのものがあろうと思っています。新しい総合盲学校が、他県をリードするような、先進的な視覚障がい教育の殿堂となるよう、心から期待しています。(塾頭 吉田 洋一)